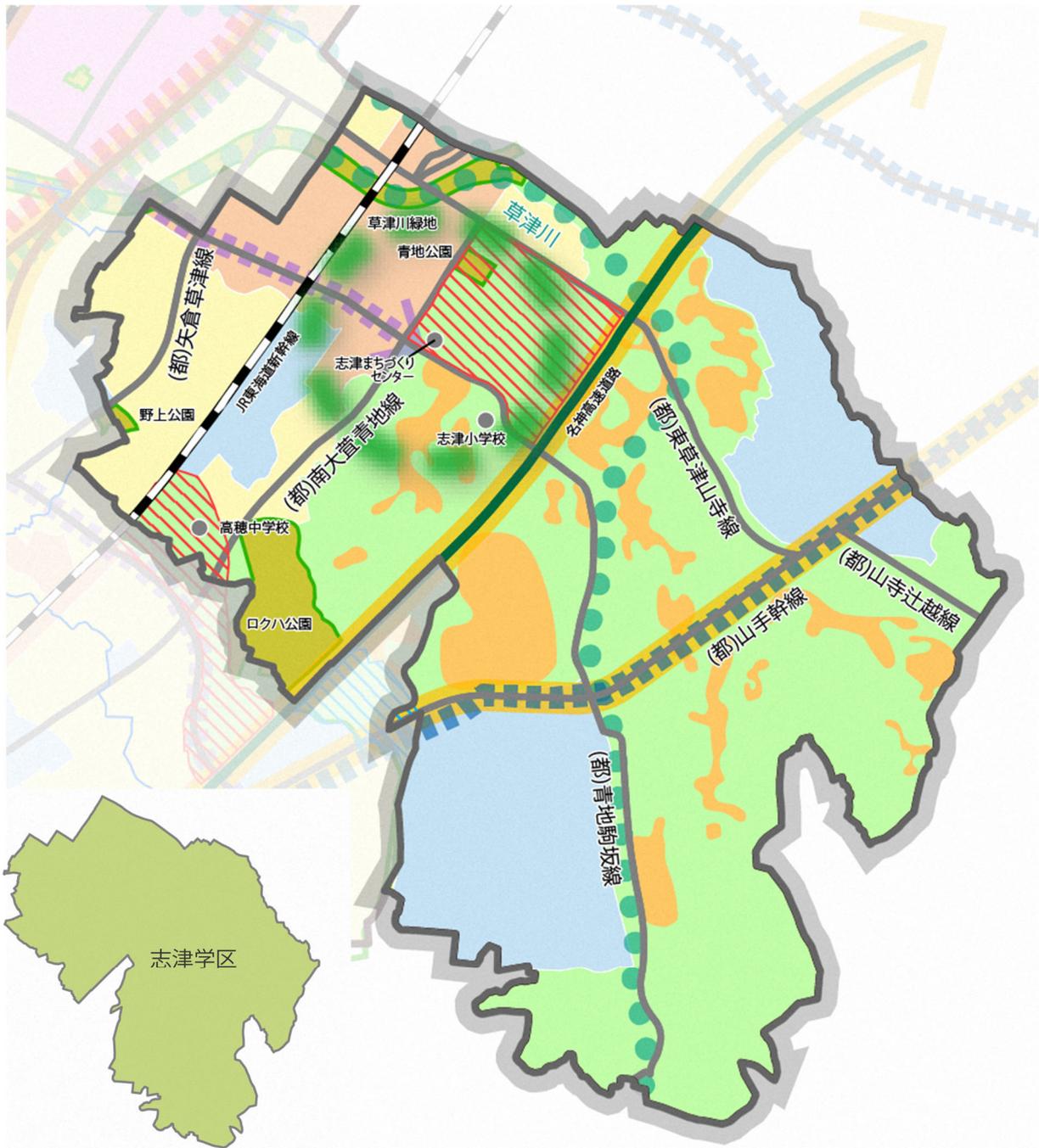


【東部丘陵地域 都市づくりの方針図】



凡 例

(ゾーン)	(土地利用重点検討区域) (核)	(軸)
住宅ゾーン	市街化予備区域	広域連携軸 (道路)
住工調和ゾーン	産業振興区域	都市環状軸
工業ゾーン		地域連携軸
自然共生ゾーン	地域再生核	水とみどりの軸
(自然共生ゾーン内)		学区界
郊外集落地		都市計画公園・緑地
		鉄道
		高速道路
		幹線道路

第5章

計画の実現に向けて

第5章 計画の実現に向けて

5-1 多様な主体による持続可能な都市づくり体制の構築

1) 産学官金の連携

少子高齢化、ライフスタイルの変化、深刻化する自然災害など、都市が対応すべき課題は多様化・複雑化しています。このような中、草津市では産学官金連携の視点に基づき、包括連携協定を結んでいます。農水産業や商工業、観光業、金融機関等の締結事業者および大学等の各主体の資源を活用し、地方創生の実現や市民サービスの向上、地域経済の活性化を図るため、相互に連携・協力し、ハード・ソフトの両面から都市づくりを進める体制の構築を図ります。

2) 市民主体の都市づくり

地域の課題を解決し、目指すべきまちづくりを進めるためには、市民の参画が必要です。そのため、まちづくり活動の拠点(地域まちづくりセンター等)の充実や様々な地域コミュニティ活動支援に取り組み、市民が都市づくりの主体であるとの認識に立ち、都市づくりへの参画・提案により、市民との合意を得て進めるとともに、市民の自主的な都市づくりに対しても市が支援を行います。

3) エリアマネジメントの推進

多様な活動や交流が生まれる市街地の形成や、ニューノーマルに対応した都市環境の実現、持続可能な公共交通ネットワークの維持などを実現するためには、様々な主体が担い手となって、地域の取組に参加するエリアマネジメントが重要となります。

本市では、エリアマネジメントの展開に向けての支援を行うとともに、既にその取組を進めている都市再生推進法人に指定された「草津まちづくり株式会社」や、公民学の連携による活動を実践している「アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)」との連携も強化していきます。

4) 持続可能な開発目標(SDGs)への貢献

平成27年に国連サミットにて、持続可能な開発目標(SDGs)が採択されるなど、経済成長、社会的包摂、環境保護の3つの核となる要素の調和の下で持続可能な開発を達成する社会を構築する必要性が高まっています。

そのため、将来都市構造の実現により、人口減少、超高齢化が進行する中においても快適に暮らせる持続可能なまちを目指し、持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を図ります。

5-2 目標の達成に向けた取組

(1) 目標の達成に向けた取組

1) 都市づくりのための安定的な財源の確保

本計画に掲げた都市づくりの目標達成に向けては、長い時間の中で多くの費用が必要となることから、効果的な取組を行うための財源の確保も重要となります。そのため、国や滋賀県とも連携を図りながら、各種制度を最大限に活用して、安定的な財源の確保に努めます。

あわせて、それら税財源だけに頼ることのない公共サービスが提供できる仕組みも必要であることから、PPP/PFI手法による民間活力の導入についても積極的に取り組みます。

2) 社会実験等の実施による事業効果の最大化

各種制度等を活用しながら都市づくりを進めるにあたっては、市民の生活が向上するよう、社会実験の実施や市民意向を十分に把握した上での事業実施を行い、事業の効果が最大限に発揮されるよう努めます。

3) 必要に応じた制度等の柔軟な見直し

社会潮流や経済情勢の変化に伴い、前回の都市計画マスタープランを策定した当時には想定していなかった状況に対応する必要性が生じています。従来の都市計画法・建築基準法による土地利用規制・建築規制の運用とともに、今回の策定により定めた目標の実現を目指すため、現行の条例等の検証や必要に応じた見直しを柔軟な考えのもとで行いながら、時代の変化にも対応した制度や仕組みを構築していきます。

(2) 市の取組と役割

1) 情報の積極的な共有

都市計画マスタープランで示した都市づくりの目標や分野別方針等は、都市づくりを進める上での共通認識として、市民・事業者等と情報共有を図ることが重要です。ホームページや SNS の活用により広報の充実に努め、地域の集まり等に出向いての説明等により、本計画の積極的な周知を図ります。また、市民の参画や地域での活動を支援するため、ICT を活用します。

2) 多様な分野の横断的連携

本計画に掲げた都市づくりの実現にあたっては、都市計画や都市整備だけでなく、福祉、産業、観光、文化、環境等の多様な分野との連携が必要です。そのため、日頃より庁内の関係する部局と本計画を共有・調整するとともに、横断的な連携や柔軟な取組が可能となる庁内連絡体制の充実に努めます。

5-3 進行管理と見直し

(1) 計画の進行管理

本計画に基づく都市づくりが適切かつ計画的に行われるよう、計画の継続的な進行管理が必要です。

また、進行管理の結果、事業の見直しが必要な場合は、社会情勢等に基づくその事業が置かれている状況を踏まえながら判断することが重要となります。

そのため、計画の進行管理にあたっては、PDCA サイクルに基づき、計画的かつ効果的に都市づくりを推進します。

【計画の進行管理のイメージ】



(2) 計画の見直し

本計画の目標年次は令和 22(2040)年としていますが、策定後の社会情勢の変化や、関連する各種計画に変更が生じた場合等においては、必要に応じて見直しを行うものとします。

あわせて、「草津市立地適正化計画」については、概ね5年ごとに進捗管理を行い、必要に応じて施策等を見直すことから、それらの関連する計画の動向とも連動しながら、本計画の見直しを検討していきます。

参考資料

参考資料

参考－1 地域別の市民意向

第4章の地域別構想については、地域毎の市民意向に基づき検討を進めています。

次ページ以降に、市民アンケート調査や第1～3回地域別市民会議で各地域にお住いの皆さまからいただいた意見を紹介します。

【学区別 市民アンケート回収率】

地域	学区	配布数(通)	回答数(通)	回収率(%)
西部湖岸地域	常盤	111	35	31.5
	笠縫東	237	74	31.2
	笠縫	248	93	37.5
	山田	183	53	29.0
	老上西	181	39	21.5
	計	960	294	30.6
北部中心核地域	渋川	213	69	32.4
	大路	259	103	39.8
	草津	257	118	45.9
	計	729	290	39.8
南部中心核地域	矢倉	221	83	37.6
	老上	206	85	41.3
	志津南	129	48	37.2
	玉川	277	84	30.3
	南笠東	187	47	25.1
	計	1,020	347	34.0
東部丘陵地域	志津	291	96	33.0
合計		3,000	1,027	34.2

(1) 西部湖岸地域

ア. 市民アンケート調査

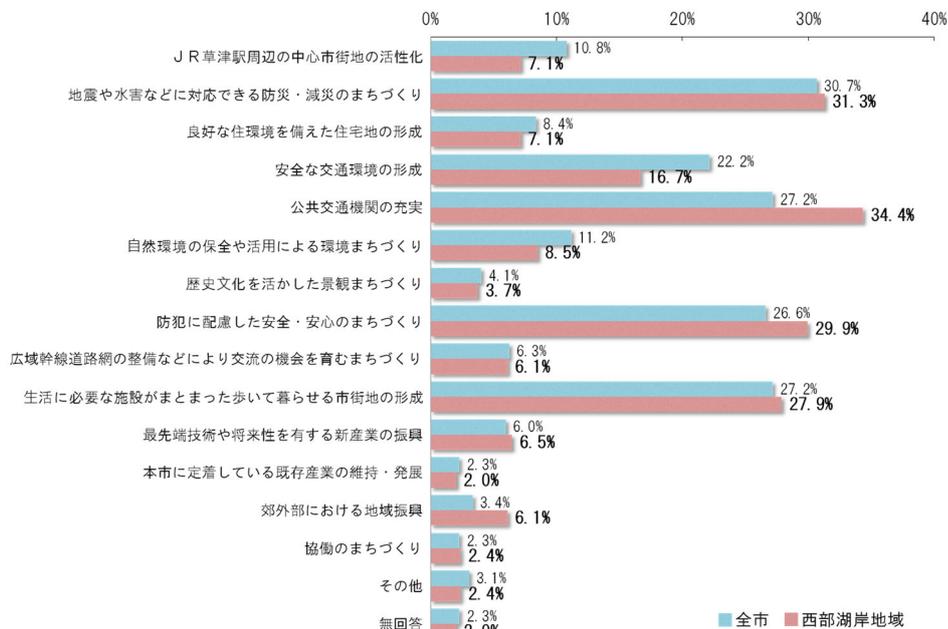
市民アンケート調査において、本地域にお住まいの皆さまの意向としては、次のとおりです。

①重点的に進めるべきまちづくりの分野

回答数が多く、全市の回答割合よりも多い項目は、「公共交通機関の充実」、「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」、「防犯に配慮した安全・安心のまちづくり」、「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」でした。

各学区で最も多い回答数は、老上西学区および笠縫学区は「地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり」、山田学区および笠縫東学区は「公共交通機関の充実」、常盤学区は「公共交通機関の充実」および「生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成」でした。

【重点的に進めるべきまちづくりの分野（西部湖岸地域）】



※2つまでの複数回答、回答者数に対する割合

No.	設問	全市	西部湖岸地域					
			老上西	山田	笠縫	笠縫東	常盤	
1	JR草津駅周辺の中心市街地の活性化	10.8%	7.1%	0.0%	3.8%	6.5%	13.5%	8.6%
2	地震や水害などに対応できる防災・減災のまちづくり	30.7%	31.3%	33.3%	26.4%	40.9%	25.7%	22.9%
3	良好な住環境を備えた住宅地の形成	8.4%	7.1%	7.7%	3.8%	4.3%	10.8%	11.4%
4	安全な交通環境の形成	22.2%	16.7%	28.2%	17.0%	15.1%	16.2%	8.6%
5	公共交通機関の充実	27.2%	34.4%	25.6%	39.6%	28.0%	40.5%	40.0%
6	自然環境の保全や活用による環境まちづくり	11.2%	8.5%	12.8%	7.5%	4.3%	14.9%	2.9%
7	歴史文化を活かした景観まちづくり	4.1%	3.7%	2.6%	5.7%	1.1%	6.8%	2.9%
8	防犯に配慮した安全・安心のまちづくり	26.6%	29.9%	41.0%	32.1%	31.2%	27.0%	17.1%
9	広域幹線道路網の整備などにより交流の機会を育むまちづくり	6.3%	6.1%	7.7%	1.9%	6.5%	6.8%	8.6%
10	生活に必要な施設がまとまった歩いて暮らせる市街地の形成	27.2%	27.9%	12.8%	35.8%	32.3%	18.9%	40.0%
11	最先端技術や将来性を有する新産業の振興	6.0%	6.5%	0.0%	5.7%	8.6%	8.1%	5.7%
12	本市に定着している既存産業の維持・発展	2.3%	2.0%	0.0%	3.8%	3.2%	1.4%	0.0%
13	郊外部における地域振興	3.4%	6.1%	2.6%	5.7%	4.3%	1.4%	25.7%
14	協働のまちづくり	2.3%	2.4%	0.0%	3.8%	3.2%	2.7%	0.0%
15	その他	3.1%	2.4%	5.1%	0.0%	3.2%	2.7%	0.0%
16	無回答	2.3%	2.0%	7.7%	1.9%	2.2%	0.0%	0.0%

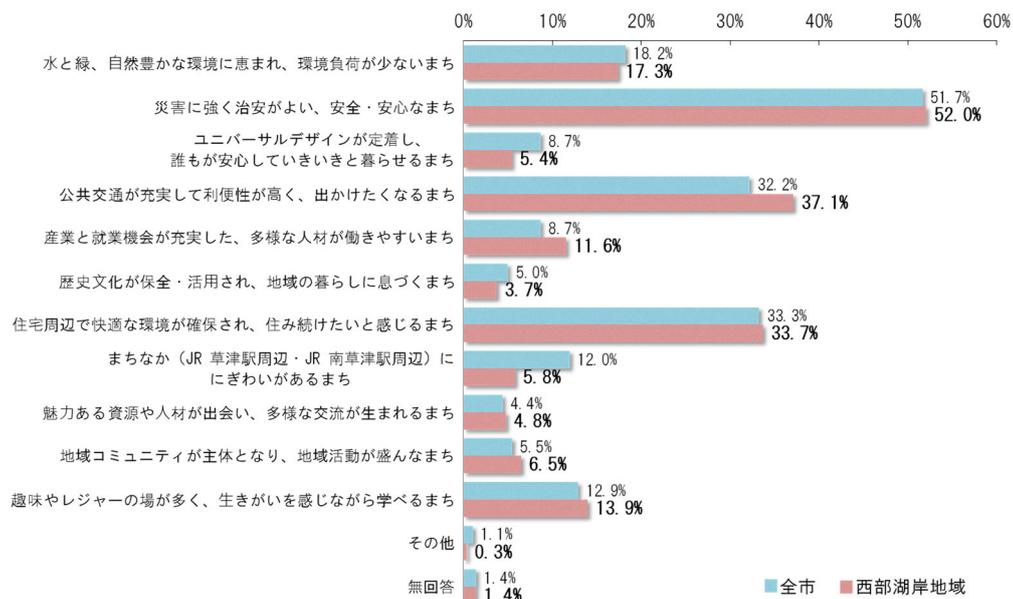
※赤色は全市での回答割合よりも高い箇所

②目指すべきまちの将来像

回答数が多く、全市の回答割合よりも多い項目は、「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」、「公共交通が充実して利便性が高く、出かけたいまち」、「住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち」でした。

各学区で最も多い回答数は、5学区全てで「災害に強く治安がよい、安全・安心なまち」でした。

【目指すべきまちの将来像（西部湖岸地域）】

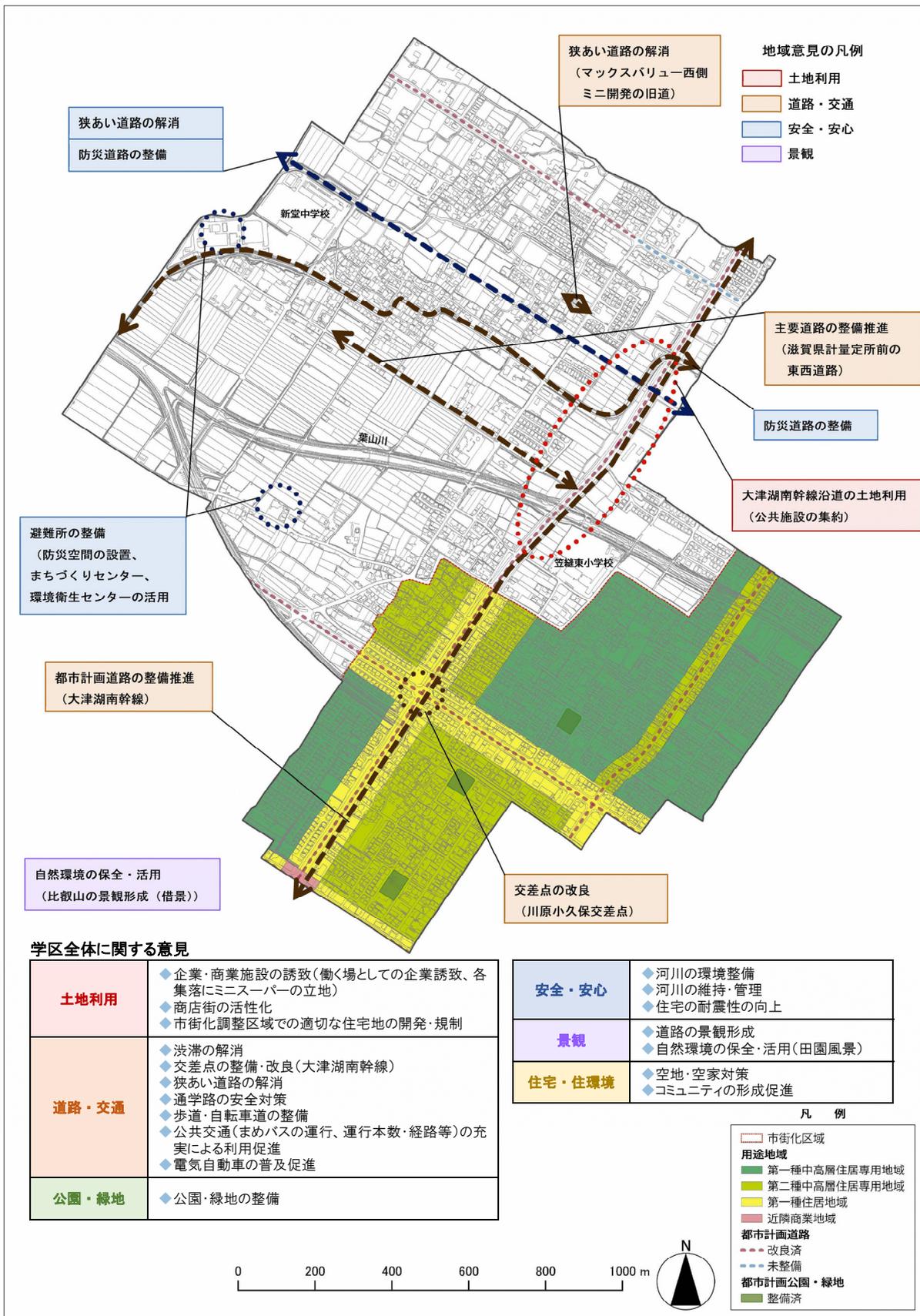


※2 つまでの複数回答、回答者数に対する割合

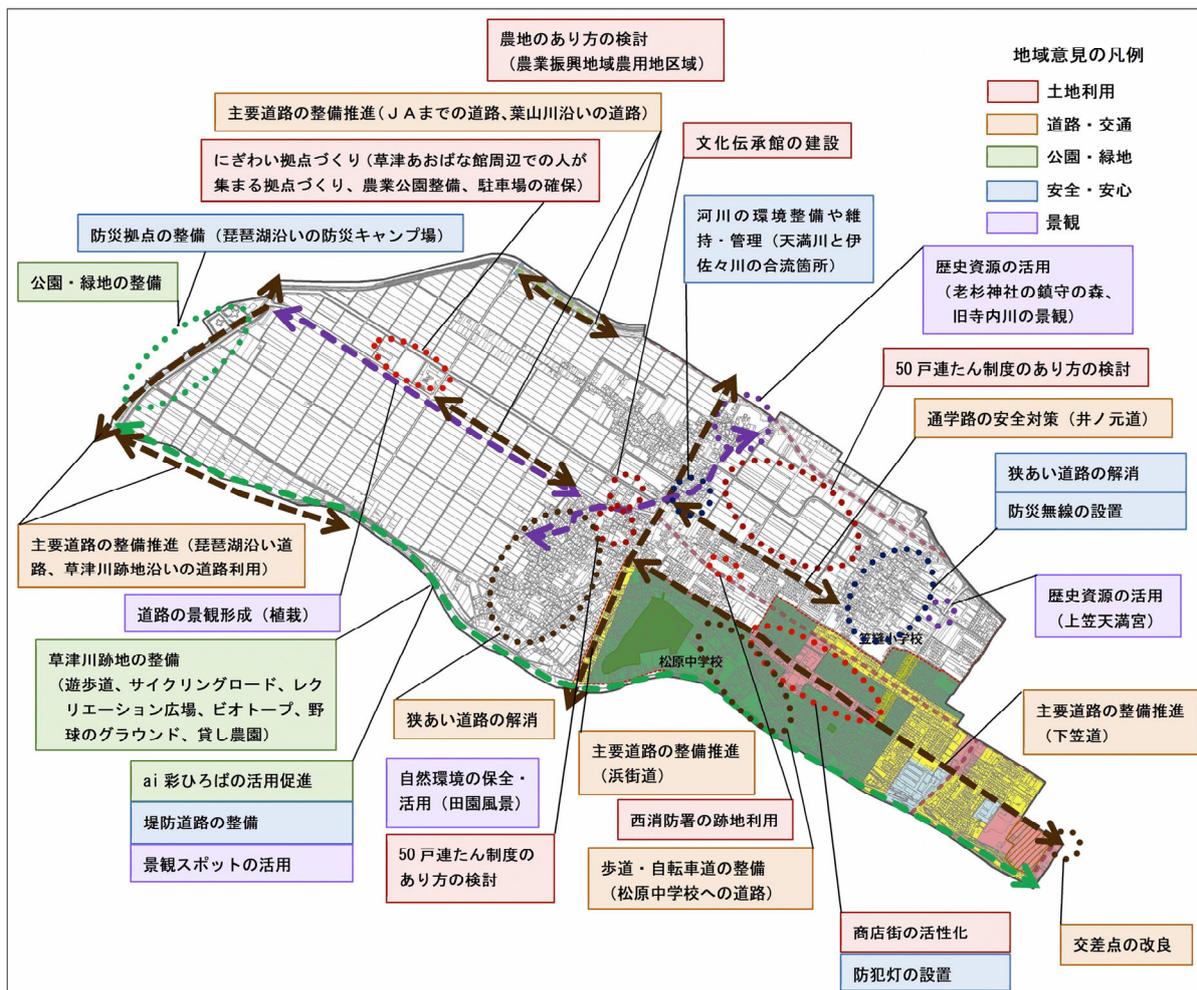
No.	設 問	全市	西部湖岸地域					
			老上西	山田	笠縫	笠縫東	常盤	
1	水と緑、自然豊かな環境に恵まれ、環境負荷が少ないまち	18.2%	17.3%	30.8%	11.3%	15.1%	17.6%	17.1%
2	災害に強く治安がよい、安全・安心なまち	51.7%	52.0%	59.0%	50.9%	50.5%	54.1%	45.7%
3	ユニバーサルデザインが定着し、誰もが安心していきいきと暮らせるまち	8.7%	5.4%	7.7%	3.8%	5.4%	6.8%	2.9%
4	公共交通が充実して利便性が高く、出かけたいまち	32.2%	37.1%	30.8%	43.4%	39.8%	33.8%	34.3%
5	産業と就業機会が充実した、多様な人材が働きやすいまち	8.7%	11.6%	2.6%	15.1%	8.6%	10.8%	25.7%
6	歴史文化が保全・活用され、地域の暮らしに息づくまち	5.0%	3.7%	5.1%	3.8%	0.0%	4.1%	11.4%
7	住宅周辺で快適な環境が確保され、住み続けたいと感じるまち	33.3%	33.7%	33.3%	34.0%	34.4%	33.8%	31.4%
8	まちなか（JR 草津駅周辺・JR 南草津駅周辺）ににぎわいがあるまち	12.0%	5.8%	7.7%	1.9%	7.5%	6.8%	2.9%
9	魅力ある資源や人材が出会い、多様な交流が生まれるまち	4.4%	4.8%	2.6%	3.8%	8.6%	1.4%	5.7%
10	地域コミュニティが主体となり、地域活動が盛んなまち	5.5%	6.5%	0.0%	9.4%	11.8%	2.7%	2.9%
11	趣味やレジャーの場が多く、生きがいを感じながら学べるまち	12.9%	13.9%	15.4%	15.1%	12.9%	14.9%	11.4%
12	その他	1.1%	0.3%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
13	無回答	1.4%	1.4%	0.0%	0.0%	1.1%	2.7%	2.9%

※赤色は全市での回答割合よりも高い箇所

【地域からいただいた意見（笠縫東学区）】



【地域からいただいた意見（笠縫学区）】



学区全体に関する意見

土地利用	◆ 農業振興
道路・交通	◆ 公共交通(まめバスの運行、運行本数・経路等)の充実による利用促進
公園・緑地	◆ 公園・緑地の適切な維持・管理
安全・安心	◆ 避難路の整備
住宅・住環境	◆ 空地・空家対策 ◆ 下水道施設の更新や維持・管理 ◆ コミュニティの形成促進 ◆ 鳥獣害対策

凡例

市街化区域
用途地域
第一種中高層住居専用地域
第二種中高層住居専用地域
第一種住居地域
近隣商業地域
工業地域
都市計画道路
改良済
概成済
未整備
都市計画公園・緑地
整備済
未整備

0 200 400 600 800 1000 m

